

グループホームから 軽度障害者追い出し?

総合支援法改定法案 現場は懸念

5/8 本旗

案は、改善点はあるものの対象者を限定するなど問題があります。その一つが、「自立生活援助」サービスの新設があります。一方で、グループホームを利用する軽度障害者は追い出されるのではないかとの懸念の声があがっています。

(若井直紀)

東京都板橋区の住宅街にあるグループホーム「はなのいえ」。知的障害のある人が、世話人の仁科美智子さん(44)らの支援のもと暮らしています。前任の茂木好子さんが2000年5月に開設しました。

バケンスの取れた食事をつくり、仲間の体調を気遣います。必要に応じて掃除や洗濯を促すことも。受診の付き添い、近所づきあい…。

もともと心を碎いていたのは、職場での人間関係の悩みなどの相談に乗るのは、突然で驚きました。アパートに住みた。

り、アドバイスをする」とです。「彼らにとって厳しいことも説明を重ねれば理解してくれます。朝晩顔を合わせているからこそ信頼関係が構築されています。前田さんは2000年5月に

普通に暮らす

り、アドバイスをする」とです。「彼らにとって厳しいことも説明を重ねれば理解してくれます。朝晩顔を合わせているからこそ信頼関係が構築されています。前田さんは2000年5月に

『国会に提出された障害者総合支援法改定法案は、改善点はあるものの対象者を限定するなど問題があります。その一つが、「自立生活援助」サービスの新設があります。一方で、グループホームを利用する軽度障害者は追い出されるのではないかとの懸念の声があがっています。

日々の支援あってこそ自立



「アパートで暮らせよね」と言わせて夜から頭痛がひどくなかったけど、今は自分で元で冗談を言えるようにでまいりました」と話すのは沢田千恵子さん(37)。パートナーの柴田隆至さん(37)と「はなのいえ」の3階で暮らします。

「日々のお金で生活できぬよね」とお金のことを言われました。だけどそれは違う。やり繰り強調します。

「毎日楽しい」

2階の1部屋で暮らす男性(45)は「僕の家は「はなのいえ」です。毎日楽しい」としてしま。

スを新設するとしています。『はなのいえ』は法案の土台となりた厚労省社会保障審議会障害者部会の報告書(2015年12月14日)では、グループホームに重度障害者に対応可能な体制を備えたサービスを位置づけようとしています。

仁科さんは「厚労省は、軽度者に一人暮らしを求めているのでは」と懸念します。

「法案が示す『定期的な巡回』では日常生活の細部まで目が行き届かず、適切な助言はできません。一人暮らしでは、彼らは健康管理などできるか気がかりです。何より精神的な支えを失う安定した暮らしが困難になるのです」

世話人の仁科さんがつくった晩ご飯を自分たちの部屋で食べる沢田さん(右)=東京都板橋区